

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2391000045
法人名	株式会社 シャトラス
事業所名	グループホーム はるた
訪問調査日	平成20年8月28日
評価確定日	平成20年9月25日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2391000045		
法人名	株式会社 シャトラス		
事業所名	グループホーム はるた		
所在地	名古屋市中川区東春田3-198 (電話) 052-304-3308		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年9月25日

【情報提供票より】(平成20年8月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	10人, 非常勤 10人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	33,900 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(170,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成20年8月8日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	69歳	最高	98歳
協力医療機関名	山口医院・やまぐち歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地の中に位置している。敷地やりビングは広く明るく開放的である。職員の定着率は良く、法人のバックアップもあり個別支援を基本にサービスを提供している。管理者はこの事業が専門性が求められるサービスと認識し、職員の質やケアの質の向上にむけ、研修にも熱心に取り組んでおり、職員の向上心ややりがいにつながっている。また、生活の基盤となる地域との関わりを大切にし、ホームとして協力できることを探し、活動や交流の中で地域の方との絆を深めている。運営推進会議を活用し、相互に検討、協議し認知症の高齢者が安心して生活できる環境をつくっていきけるよう管理者をはじめ職員一人ひとりが意識し、一步一步着実に行動に移している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	初回のため前回の評価はない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価について職員に説明し、全職員が取り組み提出した。職員は評価を普段はなかなかすることができない、見直しのチャンスとして捉えている。今後は、取りまとめた自己評価について話し合いの場を設けたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2カ月に1回開催しており、構成メンバーである地域の方は、固定ではなく内容に応じて臨機応変にメンバーを募っている。運営推進会議を通して地域の方の理解、協力を得ており、ホームの作品展には地域の方が多数参加してくれた。会議ではホームの現状報告のほか、認知症についての話なども行っており、メンバーから質問や意見、助言をもらっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者は家族が話しやすい環境づくりに努め、来訪時には家族の要望や意見を積極的に聞くようにしている。入居者本人の希望を一番に尊重するが、家族の意見も大切にすることを基本としており、ホームとして支援できることを職員間で話し合い、家族とも話し合い、互いに納得し安心できるよう取り組んでいる。家族からも「職員の対応の良さ」、「入居者本位のケア」、「楽しそうに生活している」との声があり、信頼関係ができていく。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域とのつながりを築いていくには、ホームから積極的にアプローチし、関わりを持つことが大切であるという考えのもと、散歩時の挨拶を始め、近隣とは良好な関係を築いている。地域の方にもホームの存在を認識してもらっており、子ども会から依頼がありアルミ缶回収箱をホームの駐車場に設置したり、ホームの作品展には地域の方を招待するなど、共に支え合う関係を大切にしている。1月には中学生の職場体験を予定している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして果たすべき役割を反映した理念となっており、入居者一人ひとりが「大切な家族」として、地域の中で安心して「普通の生活」が送れるよう環境づくりに努め、人間の尊厳を守り、生きがいのある生活を実現できるよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	人は一人ひとり違うということを前提に、ケアに迷った時には、「自分の家族だったらどう対応するか」、「自分だったらどうして欲しいか」を職員に考え、振り返ってもらえるよう日々の中で管理者は話をしている。管理者、職員が共に理念を意識しながら実現に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつながりを築いていくには、ホームから積極的にアプローチし、関わりを持つことが大切であるという考えのもと、散歩時の挨拶を始め、近隣とは良好な関係を築いている。地域の方にもホームの存在を認識してもらっており、子ども会から依頼がありアルミ缶回収箱をホームの駐車場に設置したり、ホームの作品展には地域の方を招待するなど、共に支え合う関係を大切にしている。1月には中学生の職場体験を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価について職員に説明し、全職員が取り組み提出した。職員は評価を普段はなかなかすることができない、見直しのチャンスとして捉えている。今後は、取りまとめた自己評価について話し合いの場を設けたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は2カ月に1回開催しており、構成メンバーである地域の方は、固定ではなく内容に応じて臨機応変にメンバーを募っている。運営推進会議を通して地域の方の理解、協力を得ており、ホームの作品展には地域の方が多数参加してくれた。会議ではホームの現状報告のほか、認知症についての話なども行っており、メンバーから質問や意見、助言をもらっている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は名古屋市認知症介護実践研修の指導者を務めていることや、名古屋市認知症グループホーム協議会の役員として活動していることから、市役所の方との関わりがあり、顔馴染みの関係である。区役所の福祉課には助言をいただいたり、相談するなど連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの暮らしぶりや健康状態などについては、家族の面会時や電話、訪問して報告している。毎月、入居者本人の写真や担当職員が書いた手紙を送付しており、家族に好評である。家族に送る写真は入居者にも確認してもらっている。家族の事情により訪問が難しい場合は、ホームが送迎を支援し本人と家族のつながりを大切にしている。家族アンケートの結果からも高い評価を得ている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者は家族が話しやすい環境づくりに努め、来訪時には家族の要望や意見を積極的に聞くようにしている。入居者本人の希望を一番に尊重するが、家族の意見も大切にすることを基本としており、ホームとして支援できることを職員間で話し合い、家族とも話し合い、互いに納得し安心できるように取り組んでいる。家族からも「職員の対応の良さ」、「入居者本位のケア」、「楽しそうに生活している」との声があり、信頼関係ができています。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホーム開設時からの職員が多く在籍しており、入居者と馴染みの関係であり、信頼関係が築かれている。1,2階の職員の配置は基本的に固定されているが、各ユニットの特性などを職員が把握しておくことも必要と感じ、7月から内部研修の一環として職員を交代している。新しい職員が入った時には、入居者に不安を与えないよう馴染みの職員がフォローしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修はまずオリエンテーションを受け、理念や認知症について話を聞いたり、ビデオを見て学んでいる。外部研修には積極的に参加できるよう取り組んでおり、加入している協議会などの研修に各ユニットから一人ずつ毎回参加している。参加後は報告書を記入し、ミーティングで報告している。また、全職員が認知症介護実践研修を受講できることを目標としている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋市認知症グループホーム協議会に加入し、研修などに職員は参加している。グループワークでは意見交換や他のホームの取り組みを知るよい機会になっている。名古屋市認知症グループホーム協議会が主催する輪投げ大会には、入居者も参加し他のホームと交流している。また、他のグループホームと互いのホームを見学し合うこともある。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居相談から入居に至るまでの間に、本人にも参加してもらい見学や他の入居者と一緒に食事を摂ったりするなど、少しでも場の雰囲気を感じてもらえるようにしている。空室があれば体験入居も可能であるが、家族の状況で利用を急がれる場合もあり、利用する人はあまりいない。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の年齢層に幅があり、日常生活の中で職員は入居者から言葉遣いや洗濯、裁縫など生活の知恵を学んでいる。また、入居者同士の信頼関係も築かれており、互いに助け合い支え合っている。職員は、入居者一人ひとりの尊厳を守り、馴染みの関係でも言葉遣いには注意を払い、敬う気持ちを忘れないよう日々のケアに取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人の生活歴や身体状況などの情報を家族に記入してもらい、それをもとに職員が日常生活の中から希望や意向を汲み取り、定期的なアセスメント内容を見直している。本人の希望を職員と一緒に実現し、共通の思い出をつくることで情報を共有することができ、入居者の安心につながっている。個別支援を基本としており、一人ひとり生活スタイルは異なり、思い思いに過ごしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントにもとづき、月1回のミーティングで職員と話し合い、計画作成担当者が最終的に介護計画を作成している。入居者の担当職員が毎月、支援目標を立てチェックしている。アセスメントも担当職員が定期的に見直し、入居者の状態や意向の把握に努めている。家族には来訪時に意見や要望を聞き、介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは3カ月ごとに行っている。月1度のミーティングで入居者の状態について話し合い、入居者の状態に変化が生じた場合は随時、介護計画を見直している。報告、連絡、相談の体制が整っており、少しの変化でも、職員はすぐに管理者に報告していることから、現状に即した介護計画となっているが、見直した内容の記録は残されていない。</p>		<p>介護計画の見直しは実施されているが、内容については記録として残されていない。入居者の状態の変化や計画の達成状況など、経過が分かり、見直しの判断材料になるため記録として残されることを期待したい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者の家族に会いたいという希望に対し、家族の面会が難しい場合は、ホームで送迎支援を行ない本人や家族に喜ばれた。また、かかりつけ医の協力のもと認知症の専門医への受診支援を行ない、連携を図ることで認知症の症状緩和につながっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にホームの医療支援のあり方について家族、入居者に説明を行い、納得のうえホームのかかりつけ医に変更してもらっている。週1回、水曜日の午後にかかりつけ医の往診があり、定期的に血液検査を実施している。家族へは医師から説明が行われることもある。整形外科医には必要に応じて受診し、歯科医へは定期的に受診している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した時における指針を示し、本人、家族に同意してもらっている。職員はできる限り支援し、最後まで看取りたいと考えており、ターミナルの研修にも参加した。入居者の健康状態の変化に応じた対応を職員が支援できるよう、ホームのかかりつけ医や看護師と情報の共有を図り、全体で連携をとり支援している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は入居者の個々を尊重し、一人ひとりの誇りを大切に、信頼関係を築くため、日々努力している。入室する際には、入居者の許可を得てから入室している。個人情報保護法の意味を理解し、個人情報の取り扱いに注意し、重要な書類は鍵がかかる場所に保管している。個人記録については、入居者の目に触れないようカウンターの中に置いている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員から支援することばかりでなく、入居者本人にこんなこともできるんだと感じ、自信をもってもらえるように、個々のできることを引き出せるよう支援している。日々の活動予定はあるが、メリハリのある生活を過ごしてもらうため、本人のその日の状態や希望に合わせて柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃より一人ひとりの食べたい物の希望を聞き、週2日は献立に取り入れ、入居者に喜んでもらえるよう努めている。また、入居者と職員と一緒に車で買い物に出かけている。食事の準備は無理強いせず、できることを行なってもらい、食事が終わると、各自で下膳している。外食には本人の希望をもとに、個別に対応している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日、時間は決まっているが、入居者の希望に応じた入浴支援を行なっている。希望があれば毎日入浴することも可能である。入浴表を作り、入浴する入居者、順番を表示して分かりやすいようにしている。入浴を拒否された場合には、状況に応じて清拭、部分浴の支援をして清潔を保持している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることをアセスメントしてその中からしたいことにつながるものを探し出し楽しみごとに繋がるよう支援している。ペン字、編み物、刺し子、貼り絵、塗り絵、押し花など、ひとり一人に合った楽しみを支援している。作品を家族や職員など人に見てもらうことにより、本人の自信になり、継続する意欲に繋がっている。個別ケアを重視しており、気晴らしの支援も個々に対応している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの外出の希望に対応できるよう職員体制を整えている。毎日、夏は朝の涼しいうちに、冬は日差しが暖かくなってから、入居者の希望にできるだけ添えるよう支援している。朝3回にわけて、職員1人につき入居者2人ほど、または、車椅子の入居者と自力で歩行できる入居者1人など、安全に散歩できるよう取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。各ユニットごとの入り口にある電子錠は、基本的に使用しないが夕方に帰宅願望の強い方がある場合、職員の対応が難しいこともあり安全を確保するため施錠することもある。職員は施錠も身体拘束にあたると認識しており、鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>入居者も参加して避難訓練を実施している。消防署の指導のもと、2階の入居者は無理に階段は使用せず、防災扉の外に誘導する訓練を行っている。職員は近くの小学校の避難場所を確認し、避難経路を把握している。また、災害時には地域の人々の協力が得られるよう、日頃から良い関係づくりに努めている。備蓄品も充分備えている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食材は業者に依頼しており、栄養士が立てた献立を利用して。週2回はホームで献立を考えている。毎月体重測定を行い、定期的に血液検査をして栄養状態を管理している。入居者の状態に合わせ、量や形態を工夫している。水分は各自ペットボトル500mを各居室に置き、ダイニングテーブルの上にも自由に水分補給できるよう大きなピッチャーが置いてある。1日1,500mの摂取を目安にしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>飾りつけなどが普通の家庭で飾られるように掲示してある。季節感も取り入れられ、入居者の作品と共にさりげなく飾られている。南側にある窓の前にテレビが設置しており、それを囲んでハイバックのソファがあり、入居者の団樂の場となっている。1階南側の窓の外にはウッドデッキがあり居間の空間をより広く感じさせている。食堂には大きなダイニングテーブルがあり、入居者の様子が見渡すことができ大家族で食事をしている雰囲気をつくっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室にはエアコンが設置しており、カーテンも備え付けてある。入居者と家族の希望で、以前使用していた家具を利用しつつ、インテリアに工夫をして各個人が個性ある居室に工夫している。お孫さんの写真や、絵などが飾られ家庭的な雰囲気をつくっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。